

# 本広げる時間持つて

被災地の子どもたちはいま、大変な時です。波の中で、大切な人と手が離れてしまった子もいるでしょう。でも明日がある。空襲、敗戦、引き揚げと、私もいろんな体験をしました。後になって振り返ったら、「あの苦しみが力になった」と思える時が必ず来ます。

私は今まで、本の世界にずいぶん助けってもらいました。苦手だったバレエの練習には、教室にあった1冊の本を読むのが楽しみで通いました。戦争中は、窓に板を打ち付けた家で、詩や謡本(うたいぼん)をたくさん読みました。

言葉そのものは忘れていても、絵やその時に感じたことは、今も幸せな

児童文学作家

あまんきみこさん(79)

—京都府長岡京市



東日本大震災で被災した子どもたちに児童図書を贈る「いっしょだよ」キャンペーンを実施しています。新しい本の購入に充てる寄付金を募っています。被災地の図書館や学校、保育所などに贈ります。郵便振替による送金をお願いします。本の寄付は受け

感覚として残っています。被災した子どもには、かける言葉も見つかりません。ただ、できれば本を広げる時間を持つてほ

付けていません。振替口座は毎日新聞大阪社会事業団(00970・9・12891)。通信欄に「子どもの本」、匿名を希望される方は「匿名希望」と明記してください。問い合わせは財団法人大阪国際児童文学館「東日本大震災『いっしょだよ』キャンペーン」事務局(☎06・6744・0581)へ。

主催 (財)大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

しい。違う世界があることに目を向けてほしい。たくさん読まなくてもいい、大好きな本を繰り返し大事に読んでください。本からもらえる喜びは、人生の大きな財産になると思います。

【聞き手・反橋希美】